

小川ひなた荘だより

新園長就任のご挨拶

平素より小川ひなた荘に入所されている皆様、ご家族様、地域やボランティアでご支援をいただいている皆様、当施設の運営に多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび令和5年4月より園長を拝命いたしました小暮宗一と申します。私は深谷赤十字病院に入職し、医事課や会計課などいくつかの部署を経験し、日本赤十字社埼玉県支部にて災害救護や講習事業を担当したのち、再度深谷赤十字病院にて人事業務を行っており長年赤十字事業に携わってまいりました。



利用者様と、小川町の景色をバックに撮影

皆さんご存知のとおり5月8日より国の感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正により、新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行に伴い、当園においても行事やボランティア受け入れの再開、これまでご不便をおかけしておりました家族との面会制限の緩和など感染対策を行いながら徐々に進めたいと考えております。

ここ比企地区に限らず全国的に進む少子高齢化社会の中、高齢者福祉に携わる人材確保や開所38年目を迎え、建物の老朽化問題など園長としての重責を担うことになり、責任の重さを感じています。このような中でも赤十字施設として「人道・博愛」の精神を持って入所されている方々が、日々を穏やかに笑顔と共に過ごしていただけるように、また地域の皆様に信頼と安心を感じていただけるような施設を目指して取り組んでまいりたいと考えております。自然にあふれた環境のもと、今後も職員一同、入所されている皆様のため心の通ったサービスをご提供できるよう精進してまいります。

ご家族の皆様、関係各所の皆様には今後もより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

小暮宗一

～笑顔がある生活を目指して～

今年もひなた荘でみごとな桜が咲きました。今年は暖かい日が続き桜の開花が早く、3月の終わりには満開になりました。ご家族の面会時には少し外に出て写真撮影をし、笑顔があふれました。また、外に出るのが難しい方でもベランダからお花見をすることができました。様々な制限がある中で、少しでもご家族と触れ合える機会を大切にしていきたいです。



夫婦でベランダからお花見

きれいですね～



もう満開だね！
今年はずいぶん
早いなあ



ご家族と一緒に！





小さなお話

これはご利用者の方からお聞きした
お話を元にしたフィクションです

俺は四人兄弟の末っ子だったんだ。ちょうど戦争が終わる少し前に生まれたから食べるものも十分じゃなくて、俺はその時はまだ赤ん坊だったからよく覚えていないけど、上の兄弟たちはきつと大変だったんだろうな。一番上の姉さんがよく面倒を見てくれたんだけど、俺はわがままばっかり言ってる姉さんをよく困らせてたもんだよ。



わがまままで頑固だっという自覚はあるんだよ。こんな俺の面倒を見てくれていた兄弟たちには感謝しないとなあ。それで、こんな性格だからか、そういう縁もあまりなくて、結局最後まで独り身で過ごしてたよ。別に寂しくはなかったね。なんだかんだで一人で自由にできるのが楽し、俺にはそっちの方が合ってるから。でも、年を重ねるにつれて兄弟たちともだんだん疎遠になってしまっ、それは少し寂しかったかな。

俺には妻も子どももいなかったから、兄弟たちが歳をとってきてからは、姪っ子がすごく良くしてくれてね。やっぱり俺って恵まれてるなあ。

ひなた荘での生活はどうだった？ それなりに楽しんでるよ。ご飯の前に食堂のテレビで相撲を見るのが日課なんだ。他にも、病院の売店で自分の好きなお菓子を買って部屋で食べた。ここでも自由にやらせてもらっているなあ。

そういえば、この間久しぶりに兄弟たちが俺のところに来てくれてくれたんだ。何十年ぶりかな、嬉しかったなあ。みんな元氣そうでよかったよ。実をいうと、会う前まではみんなの顔はうつすらとしか思い出せなかったんだだけだね。

でもやっぱり姉さんに会うとなぜだか安心するよ。ずっと会っていなかったのに不思議だなあ。独り身でも寂しくなかったのはきつと、兄弟たちの存在が心の中にずっとあったからだろうな。ああ、わがままばかり言わずにもっと素直にならなればよかったかなあ。こんなこと、恥ずかしくて本人たちには絶対に言えないけどね。本当は「ありがとう」って思ってるんだよ。

おっと、そんな話をしているうちにもうこんな時間だよ。明日も朝から見たいテレビがあるし、今日はもう寝ようかな。それじゃあ、おやすみ。

おしゃべりクラブ



「母の日の思い出」

五月の第二日曜日は母の日です。皆さんにお母さんの思い出をお聞きしました。

職員 「もうすぐ母の日になります。皆さんのお母さんはどんなお母さんでしたか？」

A 様 「厳しい母だったかな。行儀作法だったり、約束事は絶対守らないといけなくて。母は歌が上手で、学校の先生に音楽学校を勧められたけど、家の事情で行けなくなっちゃったんだって。」

B 様 「私の母も厳しかった。悪いことをするとすぐ怒られたよ。褒められた事は無かったかなあ。」

C 様 「とってもいい人だった。貧しかったけど兄弟も多くて楽しかったよ。」

職員 「今度は、自分がお母さんになって、どうでしたか？」

A 様 「子供にあまり色々と言わなかった。ほったらかしといわれたらそうだけど、子供も立派に育ったよ。子育ては大変と言われるけど、私の場合は楽しかったわ。」

B 様 「私は母とは真逆で、優しく褒めて育てたかな。自分が叱られて嫌な思いをしたから同じ思いをさせたくなかったのよ。」

C 様 「私はどんな母親だったかなあ。子供たちに聞かないとわからないわ。」

職員 「母の日にしてもらって嬉しかったことはありますか？」

A 様 「家族でお食事に行った事かしら。今でも誕生日や母の日には素敵な花束を持ってきてくれるのは嬉しいわね。」

B 様 「子供からのプレゼントはなんでも嬉しいよ。子供の成長を感じるからね。」

C 様 「子供達といられる事が一番幸せだよ。」



皆さん、昔の思い出がよみがえっていったようです。お話を聞かせていただくうちに涙ぐむ方もいらっしゃいました。やはり母親の思い出・子供たちの思い出は特別なものようですね。

新規職員の紹介



庶務二係 井上 博



看護係 恒木 佳保留



宿直 茂木 繁

ひなた荘カフェ開催

ひなた荘カフェ(栄養士による手作りおやつ)を半年ぶりに再開しました。今回は「抹茶ミルクとわらびもち風ゼリー」です。見た目も味もまるでわらびもち！今回のおやつは、実は普段皆さんが食事の時に口にしていただいているお茶ゼリー(液体の摂取が困難な方が水分摂取に用いるもの)で作られています。飽きてしまいがちなお茶ゼリーですが、黒蜜とホイップクリームがかかると、甘くて美味しいスイーツに様変わりします。また、嚥下能力の程度に関わらずほとんどの方に召し上がっていただけのため、大好評のおやつとなりました。

ひなた荘カフェ 4月

- ・抹茶ミルク
- ・わらびもち風ゼリー



面会について

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の類型見直しに伴い、5月8日より当施設での面会制限を一部緩和いたします。

◆面会ルームでの対面による面会
(マスク着用・手指消毒後に面会ルームベランダより入室)

面会時間：1回につき10～15分程度

面会人数：最大3～4人程度

頻度：1か月に2回まで

日程：毎週 水・土・日曜日

面会可能時間：①14:30～14:45

②15:00～15:15

③15:30～15:45

前日までに面会を予約していただき、当日はマスク着用、玄関で手洗い・検温を済ませてから受付にお越しください。
ご理解とご協力をお願いいたします。

季節の花言葉 「ジャーマンアイリス」

ジャーマンアイリスは菖蒲とよく似ていますが、花の色のバリエーションは驚くほど多く、緑以外の全ての色が揃っています。そのことから、レインボーフラワー(虹の花)とも呼ばれています。「吉報」「燃えるような愛」という花言葉はアイリスの語源となったギリシア語のイリス(虹)とギリシア神話に登場する女神イリスに由来しています。イリスは、天上界と地上界を虹の橋でつなぐ女神で、神々からのメッセージを人間へ伝える役割をもっていました。



ひなた荘の庭に咲くジャーマンアイリス